



# 地域の願いを県政に！

## おざわ良央県議 〈平成30年2月県議会〉一般質問報告

平成30年2月県議会で、第3回目になる本会議一般質問の機会を得ました。日頃より政治、議員活動で把握し温めてきた諸課題をとりあげ、知事等から一定の成果を引き出しました。質疑概要をご報告します。

### 質問 1 酒匂川の堆積土砂対策に対する取組

局地的豪雨禍等が頻発。酒匂川下流部の堆積土砂に、流域住民の氾濫等への不安が大きい。今後の対応を問う。

**答弁 1** 県土整備局長 「酒匂川土砂管理プラン」を5年前に策定。国や静岡県、県内広域水道企業団等と連携し、土砂管理してきた。酒匂川上流部は富士山の火山噴出物に覆われ、崩壊しやすい地質が多く、下流部で土砂堆積しやすい。毎年定期的に測量を行い、堆積の著しい箇所土砂の除去を実施する。今後も関係機関と連携し、新しいプランに、流域一体の堆積土砂対策をしっかり位置づけ、住民の安全確保に努める。

流域住民の洪水等災害の不安解消のためにも、土砂掘削の取組を事前に自治会等へ周知すべき。「土砂管理プラン」の改定作業は地元市町や地域住民の意見等も聞きながら進め、より安全な酒匂川にして欲しい。



## 提言、主張に成果!!

### 質問 2 エネルギーの地産地消について

地域の太陽光発電等からの電力を、消費者に提供する「地産地消」の中で、新たに県有施設も取組みを始めるべきだが。

**答弁 2** 知事 地産の電力を多くの県民や事業者が選択し地消することは大切。県有施設での取組も、まずモデル的に平成30年度中に実施したい。

県は県内小売電気事業者と地産地消の協定を結んでいる。県施設でも始めていただけるとの事だが遂次増やして行って欲しい。

### 質問 3 女性の就業支援について

(省略)

### 質問 4 避難所運営体制の強化について

大規模災害時の避難者への適切な対応のために、市町村への県の「避難所マニュアル策定指針」の改定で県の方針は。



**答弁 4** 知事 ①地域住民の自主的な運営が基本 ②車中泊等の避難所外避難者の把握や健康維持、避難所の安全性確保や生活環境の向上 ③高齢者等弱者への配慮、医療機関や福祉施設との連携の新たな位置づけ、等改定して地域特性に応じた市町村運営体制の強化を支援して行く。

### 質問 5 保育士確保に向けた支援について

保育士不足解消に、横浜の「保育士・保育所支援センター」が活用しにくい。県西部等の保育園の求人活動への支援強化と都市部以外にも「支援センター」の新設が必要と思うが。



**答弁 5** 子どもみらい担当局長 「就職相談会」のきめ細かい開催等やインターネット登録の活用促進等利用しやすい「センター」へ努力して、県西地域保育所の求人活動への支援を充実させる。

保育士への処遇改善も必要。県の多面的な支援を強く要望する。

### 質問 6 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて

対象者大幅増だが、身体、知的障がい者よりサービス劣る。精神科病院と市町村との連携拡充には、県の積極的な関与が必要だが。

**答弁 6** 知事 改定する県の障がい福祉計画では、ご指摘の点を新たに位置づけ、保健、医療、福祉関係者が連携支援する体制づくりを進める。県西地域の実態調査等での成果を生かして行く。



質問  
7

## 神奈川と静岡を結ぶ 道路ネットワークの強化について

両県を結ぶ沿岸部道路網強化への私の昨年の質問に、積極的な県答弁があった。その後の取組みと今後の対応を問う。

県土整備  
局長

答弁  
7

両県の観光振興や地域の活性化のためにも、本道路網は重要。県計画に位置付け、早期整備を国等に働きかけ、静岡県との情報交換や、県と地元市町の勉強会を始めた。今年度は取組を更に進め、課題別のワーキング等も設置。両県を結ぶ道路網を強化したい。更に国道135号の渋滞個所の具体的改善策等を検討する。

## おざわ県議の 新所属

- 県議会 総務政策常任委員会 委員
- 神奈川県総合計画審議会 委員
- 自民党県議団 副団長



# 産業労働常任委員会

### 企業誘致について

**Q. おざわ** 国内外から平成27年以降71件の誘致実績。その内三浦3件、県西地域は2件のみ。人口減少激しい2地域へ特化した誘致施策等を考え、県内のバランスある発展を考えるべき。

**A. 企業誘致・国際ビジネス課長** 両地域の地域資源は豊富にあり、誘致の可能性は高いと考えている。地元市町村とも協調して一緒に進めていきたい。

### 観光振興計画について

**Q. おざわ** 計画を平成28年に策定。入込観光客数、観光消費額総額、外国人旅行者の訪問者数について数値目標が設定されているが現状と今後の取組を問う。

**A. 観光企画課長** 諸条件重なり計画通りに行かなかったが、観光振興計画に積極的に取り組み、計画推進に努めます。

### 芦ノ湖キャンプ村について

**Q. おざわ** 県立施設として平成7年開設以来、約80万人以上の利用者あり、大変有意義な施設。今回、今後30年間民間キャンプ場として移譲されるが、従来以上のサービス提供や返還後の事なども考慮した対応を望む。

**A. 観光企画課長** (省略)

### おもてなし人材の確保・育成について

**Q. おざわ** ラグビーワールドカップや東京2020大会で海外からのお客様に多言語で観光案内をする人材への取組は。

**A. 観光企画課長** 単なる道案内、通訳でなく、県内観光地の交通、歴史、文化等に習熟し、かつ「おもてなしの心」でお客様をご案内できる人材が必要。スキルアップセミナーや実地研修等を行い、定員を上回る応募者があった。

**Q. おざわ** ソフト面だけでなく、受入環境の整備も、民間施設への支援だけでなく、県有観光施設整備も加速して欲しい。



県議会産業労働常任委員会委員として、おざわ県議は2月～3月の3日間、連日熱心に県当局への質疑を重ねました。

### 「経営承継円滑化法」に基づく支援について

**Q. おざわ** 中小企業経営者の高齢化が進む中で、贈与税や相続税の高負担、人材難、企業継続への不安等から事業承継が進んでいない。後継者が後を継ぎたくなくなるよう経営改善や経営能力の向上、新ビジネスへの転換等を、中小企業支援機関や市町村を含めた“オール神奈川”で全面的に支援し、中小企業の円滑な世代交代、地域経済の活性化を推進して欲しい。

**A. 中小企業支援課長** 商工会、商工会議所、金融機関、税理士会等と連携を強め、制度の周知と活用を促す。



### 女性就業支援について

**Q. おざわ** 働く意欲を持つ未就業の女性の社会での活躍の場を増やすために、国の働き方改革と歩調を合わせた支援策を強化すべきだが。

**A. 労政福祉課長** 子育て期(35～39歳)に女性の就業率の落ち込みが全国最低という県の状況を回復するために、神奈川なでしこブランド事業、家事支援外国人受入事業、テレワーク導入事業等や、保育所待機児童の受け皿整備、女性の活躍応援団事業、その他きめ細かな取組を進めます。



### 物流分野の職業訓練強化事業の取組状況について

**Q. おざわ** “トラック物流危機”で運転手不足が続いているが、企業誘致にも影響する。

トラック物流は、国内貨物輸送の約9割を担い、県内産業を支え、また災害時の緊急搬送の役割も担う等非常に重要。就労状況の改善等も含め、人手不足対策に取組んで欲しい。

**A. 産業人材課長** 「神奈川県地域人材育成協議会」のご意見や、トラック協会、ハローワーク等の関連機関ともより一層連携して進めたい。



流域下水道 箱根・小田原幹線  
管渠築造工事 シールドマシン  
(直径80cm)



(都)城山曾比線  
久野坂下地区道路延長工



酒匂川河床堆積土砂除却工事



生命の星・地球博物館  
特別展事業

# 県政 P Topics photo

平成30年度県予算も決定し、県西地域にも新事業、継続事業等が確定。厳しい財政環境の中でも、おざわ県議の活動や主張が各所に反映されました。ハード、ソフトを含め、それら事業の現場を、おざわ県議と視察しました。

## 地域の課題解決に全力投球!



有害鳥獣捕獲事業



小田原大橋耐震補強工事



銀座通り電線類地中化促進事業

去る3月下旬、自民党県議団を代表して、英・仏2ヶ国を海外視察。英国では、ヘルスケア(健康管理)分野の研究・産業化への官民を挙げての取り組みを「英国公衆衛生庁」及びロンドン市が主導する「メドシティ」、そして名門大学、キングスカレッジロンドンの医療機関「ガイズ・アンド・セントトーマス財団」を視察。また、英国離脱に揺れるEUの代表国、仏国では、厳しい政治、経済環境の変化に直面している本県企業の動向や海外進出の実情等を調査。「ジェットロパリ事務所」及び「アマダ・ヨーロッパSA」を視察した。5日間という強行軍だったが、十分に目的を達成し実り多い視察となった。

### 海外視察



### 国内視察

湘南港



東京オリ・パラ・ラグビーW杯特別委員会は2月に国内視察。“クマモン”で国内、外へ観光発信して成果を上げている熊本県の東京事務所を兼ねた「銀座熊本館」、そして五輪開催へ向けて整備が進むセーリング会場の江ノ島の「湘南港」を現地視察した。



視察議員団(英)



アマダ・ヨーロッパSA(仏)